

# 経営比較分析表（令和6年度決算）

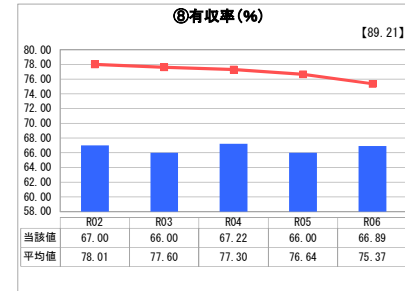
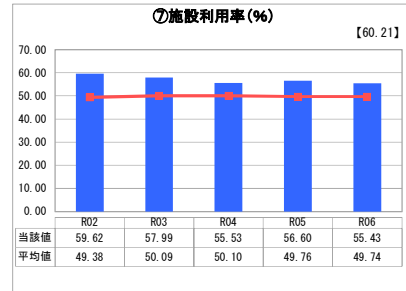
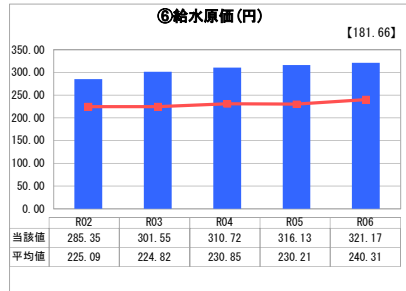
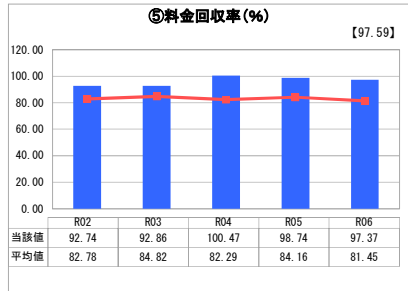
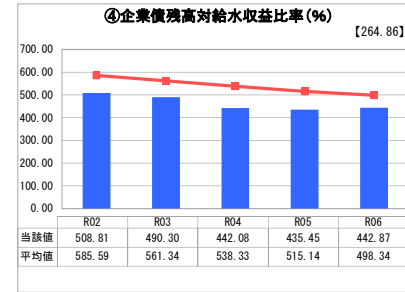
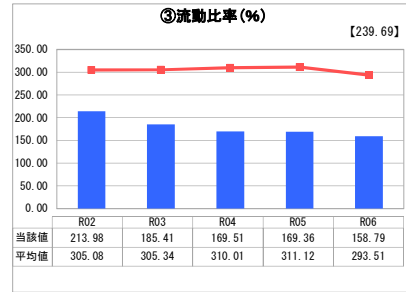
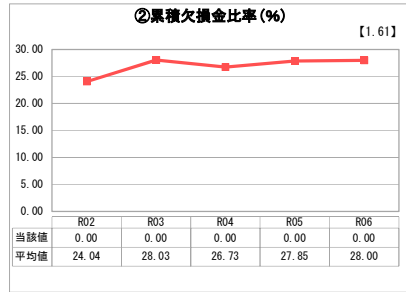
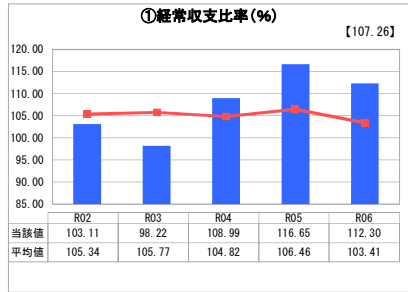
北海道 厚岸町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A8	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	46.59	91.18	5,860	

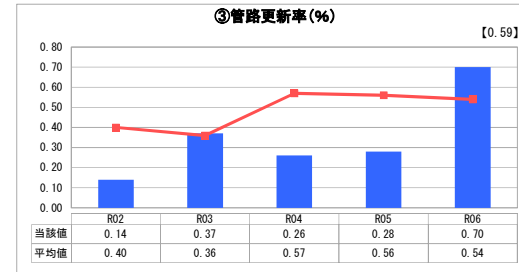
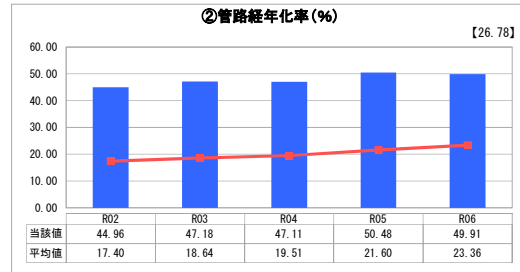
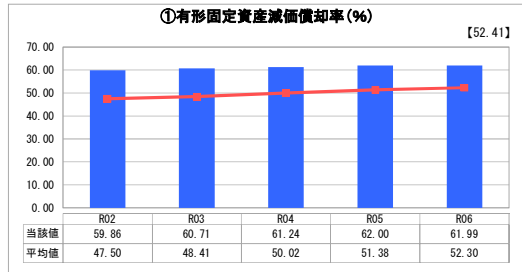
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
8,195	739.12	11.09
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
7,370	45.90	160.57

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和6年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

水道料金は、平成24年度に全体で約20%の値上げをし、その後は5年毎に料金を見直すこととし、令和4年の水道料金改定では全体で約10.8%の値上げとなった。

これにより給水収益が増加し、赤字が解消され、経常収支比率や料金回収率などの改善をすることができた。

しかし、有収率はほぼ横ばいであり、その要因は、給水装置や水道施設の老朽化に伴い、小さな漏水が点在しているため、機動的な漏水調査により早期発見・修理に努めているが、有収率の向上に至っていない状態である。

給水収益は、人口減少の影響から家事用の収益は年々減少、業務用の収益は令和5年度の様な気温の影響による水道利用の増加はなく、若干減少傾向にあった。

人口減少、施設の老朽化、物価高騰など、水道事業を取り巻く環境が益々厳しさを増す中、今後は令和9年度の料金改定に向け審議を重ね、持続可能な事業基盤を確立し、将来的にも安定的に水道事業を継続出来るよう努める。

### 2. 老朽化の状況について

水道管路の老朽化は増加しており、総延長約160kmの内、布設から40年以上を経過している管路は80.26kmと全体の約50%を占めており、法定耐用年数を超える管が今後増えていく状況である。

人口や産業活動を考慮し、今後の水需要の見通しから管網の見直しを図りながら、更新優先度を考慮した上で計画的に基幹管路等の更新を進めている。

## 全体総括

料金改定を踏まえた今後10年間の経営方針を示す厚岸町水道事業経営戦略に基づき、水道施設の効率的な更新を検討すると共に、今後減少が予想される給水収益を見据えた収益と費用を検証し、健全財政の維持と更新財源の確保の両立を図ることで、安全安定給水を維持していくことに努める。